

磯部圭太です。

今後本市においても、少子高齢化が加速していき、厳しい財政状況が続いていきます。

そのような中、複雑化・多様化していく様々な社会・地域の課題を解決していくためには、行政だけではなく、市民をはじめ、民間企業や団体、大学など、横浜に関わる様々な立場の方々と行政とが対話を重ね、ともに知恵や力を出し合い、解決を図っていくことが不可欠になっていくと考えています。

あるエピソードを紹介します。

保土ケ谷区内に、横浜新道が通っており、その高架下が公園として整備されています。昼間は地域の子供たちの遊び場となっていました。

しかしながら、深夜になると風景は一変し、大勢の若者たちが公園に集まり、改造したオートバイを公園に乗り入れる、高架の支柱や公園の遊具にスプレーで落書きをする、爆竹を鳴らしロケット花火を打ち上げて大声で騒ぐなどといった場所になっていました。

地域住民の方々は大変困っていたのですが、なかなか解決には至らず、我慢して見過ごさざるを得ないといった状況でした。

当時、私は 20 代前半ながら町内会の役員となり、この問題の解決に取り組みました。

解決が難しかったのですが、何度も問題提起をし、話し合いを続けていく中で、次第に、横浜市や警察などの行政、横浜国立大学、地域の小学校や住民、当時の道路公団など様々な方々に関心と協力の輪が広がり、公園にバイクが入れない構造への改修や、支柱に子供たちの絵などを描くことで落書きをされないようにするなどの取組が進み、問題解決に至ることができました。

このように、地域の課題について、民間や行政の様々なステークホルダーが課題を共有し、対話を重ね、連携を図って解決に導いていくことの効果や重要性は、肌で感じています。

そのような背景のもと、先日の予算関連質疑においては、市民や企業の方々と行政との対話の場の充実を図るべきであるという視点から、対話による創造の取組について質問しました。

このような民間と行政との対話による創造について、より詳細に質問いたします。まずは、

(1) 本市における民間と行政との対話の取組について、伺います。

【共創推進室長答弁】

対話の取組の中でも、様々な課題の解決に向けて、民間と行政とが対話を進める「共創

ラボ」の取組は、今後の本市の共創の推進において大変重要であると考えられ、私も関心を持っているところです。そこで、

(2) 共創ラボの概要とねらいについて、伺います。

【共創推進室長答弁】

共創ラボは、具体的な社会や地域の課題をテーマとして開催されるものとのことですが、様々な民間の方々のアイデアやノウハウを活かして、課題の解決につなげる取組である以上、その成果も見据えた効果的なテーマの設定が大変重要になるものと考えます。

今年度実施した共創ラボにおいても、そのようなテーマを設定し、対話を進めてきたものと考えます。そこで、

(3) 今年度の共創ラボで話し合われたテーマと成果について、伺います。

【共創推進室長答弁】

民間企業における健康経営の推進や、公共空間の有効活用は、行政のみで取り組むだけでは解決が難しい課題であり、共創ラボのような場で解決策を話し合うことに意味があるものと考えます。

今後、共創ラボの取組を、より一層展開していただきたいと思いますが、様々なステークホルダーが関わるものである以上、共創ラボの取組が目指すビジョンを、ぶれずに、しっかりと見据えて進めていく必要があるものと考えます。そこで、

(4) 共創ラボが将来的に目指すビジョンについて、局長に伺います。

【局長答弁】

共創ラボのような課題解決の場は、これからの横浜をオール横浜で発展させていくために大変重要なものだと考えていますので、この取組を発展させていきたいと思っています。

少し視点を変えて、対話による創造に関して、若者との対話の側面からいくつか質問いたします。

日々進化していくスマートフォンなどICT機器の活用をはじめ、最先端の技術や知識、ノウハウを都市経営に取り込んでいくためには、大学をはじめとした教育機関や研究機関、そして、そこで学ぶ学生たちと対話や連携は欠かせないものと考えます。

例えば、本市では「横浜ユースアップス」という大学生や専門学校生、高校生を対象にオープンデータを活用した市政への提案やICTを活用した地域課題解決のためのアプリコンテストなどを支援していると聞いています。

私も先日のインターナショナルオープンデータデイに参加しました。今年度のユースアップスに参加した専門学校生や大学生たちによる最終成果発表会が開催されたと聞いています。そこで

(5) 今年度のユースアップスの取組内容とその評価について、伺います。

【政策調整担当部長答弁】

こうしたユースアップスの取組などを通じて、若者が地域の企業と連携して地域経済の活性化や地域課題の解決に取り組んでいくことは大変重要だと考えます。

また、地域社会においても急速な高齢化が進んでおり、地域の課題解決において若者の柔軟な発想や行動力が欠かせないものではないかと考えます。そこで、

(6) ユースアップスにおける学生と企業及び自治会町内会などの地域団体との連携・交流の状況について、伺います。

【政策調整担当部長答弁】

私の地元の保土ヶ谷区でも公園整備のワークショップや商店街の活性化、困難を抱える子どもたちの寄り添い型支援などでの取組において、横浜国立大学の学生たちのパワーが、様々な形で発揮されています。

今後、超高齢・人口減少社会が進んでいく中で、若者と企業、地域との交流促進は重要性を増していくと考えられます。

そのような意味で、ユースアップスのような取組は、貴重な機会になると考えます。そこで、

(7) ユースアップスの今後の方向性について、局長に伺います。

【局長答弁】

こうした「ユースアップス」の試みなど、多様な民間主体と行政が対話を通じて共に新たな価値を創造していく「共創」の取組を、場当たりのではなく継続して進めていくことが重要と考えます。そこで、

(8) ユースアップスの取組をはじめ、多様な民間主体との「共創」について、長期的な視点から戦略的かつ組織的に取り組むべきと考えますが、副市長の見解を伺います。

【副市長答弁】

多様な民間主体との共創が一層進むよう、戦略的かつ組織的に取り組んでいただくこと

を要望し、私の質問を終わります。